

ラヴェンナ

年末押し迫ってきましたが、今回は、ボローニャ経由でラヴェンナを訪問しました。ラヴェンナは、初期キリスト教建築物群が有名で、世界遺産に登録されています。ボローニャから更に列車で1時間20分かかるので、少しばかり、観光のラインから離れているところにあり、今までなかなか訪問できませんでしたが、ぜひとも一度行きたかったところでした。

ラヴェンナは、アドリア海に面した沼地で地形的にも防衛に適していた為、軍港として、また、商業都市としてローマ時代から栄えていた街です。但し、ラヴェンナの中心街は海岸線から5キロほど奥に入ったところにあります。また、紀元402年にミラノから遷都されて西ローマ帝国の最後の都でもあったところです。その後、東ゴート王国の首都となり、540年には、東ローマ帝国のイタリア半島の拠点として栄えました。しかし、東ローマ帝国の衰退と共に6世紀末から7世紀に渡り、ラヴェンナも衰退して、単なる小さな街となってしまいました。但し、そのおかげでその後の戦乱によって大きく破壊されることもなく現在にその面影を残しています。

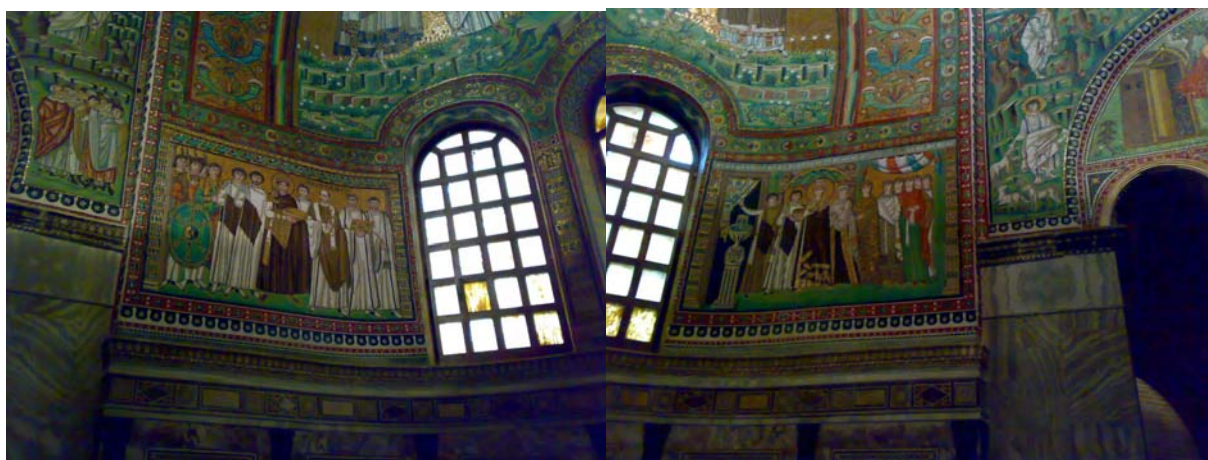
このような歴史を持つラヴェンナには、5世紀、6世紀の初期キリスト教の建築物が現存しています。また、東ローマ帝国の影響でビサンチン文化の痕跡を今も見ることが出来るので、イタリア半島の中でも貴重な街となっています。ビサンチン文化といえば、ヴェネツィアのサンマルコ寺院を思い出しますが、サンマルコ寺院は、ビサンチン文化の影響は受けてはいるものの、中世イタリア文化との混合です。その点、ラヴェンナは、ヴェネツィアよりももっとビサンチン文化が色濃く残っているところです。そのビサンチン文化は教会のモザイク装飾に代表されています。

ラヴェンナは小さな街であり、観光すべき建築物も限られていますので、半日で十分に満喫できます。まず、サン・ヴィターレ聖堂です。ここは、527年に建設が開始されて547年に完成している八角形のレンガ造りの教会です。教会の構造自体もミラノ周辺の教会とは全く違います。まだ見たことはありませんが、イスタンブールの聖ソフィア大聖堂を小型にしたようなものだと思います。

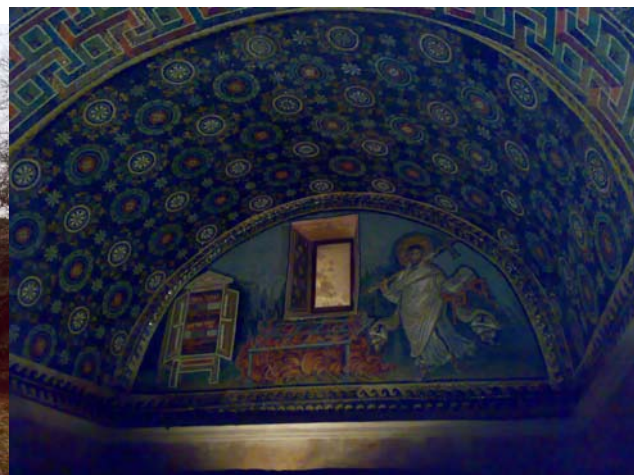


残念ながら、聖堂の上部は修復中でカバーがかかっていますが、それでも、正面にファサードがあるいつものイタリアの聖堂とは全く違います。付属している修道院の回廊も静かな雰囲気があり、何となくもっと居たいような気持ちになる場所でした。回廊の回りにはかなり古そうな遺跡も飾られています。でも今回の目的はモザイクなので、その誘惑を振り切って聖堂内に入ると直ぐに正面のモザイクが目に入ってきました。もう、ここからは言葉は要りません。下記の写真を見てください。モ

ザイクはフレスコ画よりも芸術性が乏しいと思っていたのですが、それは間違いだと気がつきました。



キンキラキンのサンマルコ寺院も良かったのですが、ラヴェンナのモザイクはもっと深みがあります。このサン・ヴィターレ聖堂の敷地内にガッラ・プラチディアの霊廟があります。ガッラ・プラチディアとは西ローマ帝国のテオドシウス皇帝の娘で、彼女が5世紀前半に立てた霊廟だと言われています。従って、本当は彼女のお墓では無いのです。そんな事はどうでも良いことで、とにかく、ここも内部全面を覆っているモザイクが素晴らしいのです。でも、残念ながら内部はかなり暗くフラッシュを使用禁止なので写真がうまく取れていません。



このサン・ヴィターレ聖堂の周りには、ローマ時代の遺跡のような跡と古い建物が点在しています。なにも説明がないので、何か良くわかりませんが、周辺を歩くだけでも歴史を感じるどころでした。

サン・ヴィトローレ聖堂とガッラ・プラチディア霊廟の入場券（8ユーロ）には残り2つの入場券がついています。一緒に貰った地図を片手に次の名所に歩いて行きました。ラヴェンナのドゥオモは18世紀に建て直された（もともとは5世紀に建てられたとのこと）もので比較的新しい建物ですが、洗礼堂だけは5世紀に建てられたものが残っています。もちろん、その内部はモザイクです。



最後に行ったのは、サンタポリナーレ・ヌオーヴォ聖堂です。ここは、6世紀前半に東ゴート王国皇帝によって建てられたもので、サン・ヴィトローレ聖堂とは形が違い長方形の教会です。でもファサードはなく天井も木造です。東ローマ帝国がこの地に入ったときに、内面には東ゴート族が描かれていたために、改装してモザイクにしたようです。また、この教会はもともと“救世主キリスト聖堂”と言われていましたがサンタポリナーレ聖堂と名前を変えるときに、ラヴェンナ（クラッセ）には、他にもサンタポリナーレ聖堂があったことからヌオーヴォが付いたと言われています。



入場券には含まれていませんが、もう一つモザイクの有名な教会があります。ラヴェンナの街から5キロほど離れたクラッセ（ラヴェンナの駅からバスで15分ほど）にサンタポリナーレ・イン・クラッセ聖堂があり、そこにもきれいなモザイクが残っているそうです。もう、十分にモザイクは鑑賞できたのでそこまで行かずに、ポポロ広場でゆっくりしてラヴェンナの街に浸かっていました。

今回は、クリスマスということもあり、久しぶりにキリスト教にどっぷりと浸かってきました。でも、今までの教会とは一味も二味も違うモザイクの教会のすばらしさを堪能することが出来て満足しました。実際に、サン・ヴィトローレ聖堂のモザイクは最高でした。

ボローニャまでは、ミラノ中央駅からユーロスター（ES）で1時間5分ですので、普通列車と違いあっという間に着きます。ラヴェンナまではボローニャから普通列車で1時間20分ですから、考えていたよりもずっと近いと感じました。バスも乗りませんから移動も楽です。今回は、ミラノ中央駅の自動販売機で、ミラノ・ボローニャ間のESの往復と、ボローニャ・ラヴェンナ間の普通列車の往復を両方買いました。意外と簡単に買えましたよ。後は、切符の刻印を忘れずに列車に乗るだけだったので結構気楽な列車の旅でした。ボローニャからラヴェンナはずっと静かな田舎の畑の中を通ります。但し、ESの往復は82ユーロ（片道41ユーロ）でちょっと高い気がします。それに、ESは休日でしたので満員でした。ボローニャ・ラヴェンナ間は片道5.8ユーロですし列車もすいていました。

途中で寄ったボローニャの行き（朝）と帰り（夕方）の写真です。ボローニャも楽しそうな街です。夕方は人通りが多く、さすが大都会ですね。

